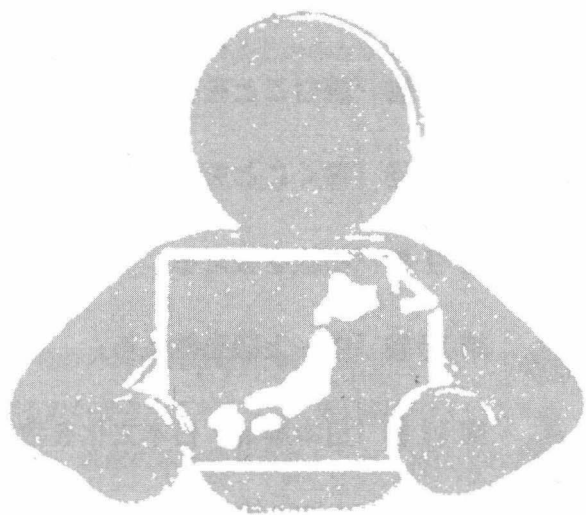


日本事情・ 日本文化を教える



日本事情・ 日本文化を教える

国際交流基金 著



【執筆者】

坪山由美子(つばやま ゆみこ) 国際交流基金クアラルンプール日本文化センター
日本語教育専門家
(元国際交流基金日本語国際センター専任講師)
築島史恵(やなしま ふみえ) 国際交流基金日本語国際センター専任講師

◆教授法教材プロジェクトチーム

国際交流基金日本語国際センター専任講師
久保田美子(チームリーダー)
阿部洋子/木田真理/中村雅子/長坂水晶/築島史恵
元国際交流基金日本語国際センター専任講師
木谷直之(国際交流基金ジャカルタ日本文化センター日本語教育専門家)
小玉安恵(サンノゼ州立大学外国語学部助教授)

国際交流基金 日本語教授法シリーズ

第11巻 「日本事情・日本文化を教える」

発行 2010年5月20日 初版1刷
定価 900円+税
著者 国際交流基金
発行者 松本 功
装丁 吉岡 透 (ae)
印刷・製本 三美印刷株式会社
発行所 株式会社ひつじ書房
〒112-0011 東京都文京区千石2-1-2 大和ビル2F
Tel: 03-5319-4916 Fax: 03-5319-4917
郵便振替 00120-8-142852
toiawase@hituzi.co.jp <http://www.hituzi.co.jp>

©2010 The Japan Foundation

ISBN978-4-89476-311-1

造本には充分注意しておりますが、落丁・乱丁などがございましたら、
小社にお買い上げ書店にておとりかえいたします。
ご意見・ご感想など、小社までお寄せくだされば幸いです。

国際交流基金 日本語教授法シリーズ

【全14巻】



第1巻 「日本語教師の役割／コースデザイン」



第2巻 「音声を教える」 [CD-ROM付]



第3巻 「文字・語彙を教える」



第4巻 「文法を教える」



第5巻 「聞くことを教える」 [CD付]



第6巻 「話すことを教える」



第7巻 「読むことを教える」



第8巻 「書くことを教える」



第9巻 「初級を教える」



第10巻 「中・上級を教える」



第11巻 「日本事情・日本文化を教える」



第12巻 「学習を評価する」



第13巻 「教え方を改善する」



第14巻 「教材開発」

■はじめに

国際交流基金日本語国際センター（以下「センター」）では1989年の開設以来、海外の日本語教師のためにさまざまな研修を行ってきました。1992年には、その研修用教材として『外国人教師のための日本語教授法』を作成し、主に「海外日本語教師長期研修」の教授法の授業で使用してきました。しかし、時代の流れとともに、各国の日本語教育の状況が変化し、一方、日本語教授法に関する研究も発展したため、センターの研修の形や内容もさまざまに変化してきました。

そこで、現在センターの研修で行われている教授法授業の内容を新たにまとめ直し、今後の研修に役立て、また広く国内外の日本語教育関係のみならずにも利用していただけるように、この教授法シリーズを出版することにしました。この教材の主な対象は、海外で日本語教育を行っている日本語を母語としない日本語教師ですが、広くそのほかの日本語教育関係者や、改めて日本語教授法を独りで学習する方々にも役立てていただけるものと考えます。また、現在教師をしている方々を対象としていますが、日本語教育経験の浅い先生からベテランの先生まで、できるだけ多くのみなさまに利用していただけるよう工夫しました。

■この教授法シリーズの目的

このシリーズでは、日本語を教えるための必要な基礎的知識を紹介するだけでなく、実際の教室で、その知識がどう生かせるのかを考えてもらうことを目的としています。

国際交流基金日本語国際センターでは、教師の基本的な姿勢として、特に次の能力を育てることを目的として研修を行ってきました。その方針はこのシリーズの中でも基本的な考え方となっています。

1) 自分で考える力を養う

理論や知識を受身的に身につけるのではなく、自分で考え、理解して吸収する力を身につけることを目的とします。

2) 客観性、柔軟性を養う

自分のこれまでの方法、考え方にとらわれず、ほかの教師の意見や方法を知り、客観的に理解し、時には柔軟に受け入れることのできる教師を育てることをめざします。

3) 現実を見つめる視点を養う

つねに現状や与えられた環境、自分の特性や能力を客観的に正確に把握し、自分の現場に合った適切な方法を見つける姿勢を育てることをめざします。

4) 将来的にも自ら成長できる姿勢を養う

研修終了後もつねに自分自身で課題を見つけ、成長しつづける自己研修型の教師を育てることをめざします。

■この教授法シリーズの構成

このシリーズは、テーマごとに独立した巻になっています。どの巻からでも学習を始めることができます。各巻のテーマと概要は以下の通りです。

- | | | | |
|------|------------------|---|---|
| 第1巻 | 日本語教師の役割／コースデザイン | } | 日本語を教えるうえでの全体的な |
| 第2巻 | 音声を教える | | 問題を取りあげます。 |
| 第3巻 | 文字・語彙を教える | } | 各項目に関する基礎的な知識の整理をし、
具体的な教え方について考えます。 |
| 第4巻 | 文法を教える | | |
| 第5巻 | 聞くことを教える | | |
| 第6巻 | 話すことを教える | | |
| 第7巻 | 読むことを教える | | |
| 第8巻 | 書くことを教える | | |
| 第9巻 | 初級を教える | | |
| 第10巻 | 中・上級を教える | | |
| 第11巻 | 日本事情・日本文化を教える | | |
| 第12巻 | 学習を評価する | | |
| 第13巻 | 教え方を改善する | | |
| 第14巻 | 教材開発 | | |

■この巻の目的

この巻の目的は、主に海外の日本語教育の現場で、日本事情や日本文化をどのように扱ったらいいか、具体的に考えることです。

海外で日本語を教えている先生方の中には、「日本事情や日本文化は専門ではないから教えられない」「日本事情や日本文化の範囲が広すぎて、何を教えたらいいいのかかわからない」と言う人が少なくありません。確かに、海外の現場では、教師も学習者も、日常生活で日本と接することがほとんどありません。そして、教師は、授業で扱う内容を、自分で日本事情や日本文化の中から、切り取らなければなりません。特に日本からの情報があまりない国や日本人が少ない地域では、教師が教える日本が学習者の日本観や日本人観を決めることになりますから、責任も感じるでしょう。それでも、やはり、日本語教育の中で、日本事情や日本文化を扱うことには意義があります。そして、この巻を読めば、「何を教えるか」より「どう教えるか」が大切で、海外の現場でもノンネイティブの先生方でも、扱えることがいろいろあることがわかると思います。

また、「(日本語を教えるときに)日本のことも教えたいけれど、時間が足りない」「教科書以外のことを教える機会がない」と言う先生方もたくさんいます。きっと、日本語のカリキュラムや進度が決まっていて、日本事情や日本文化を教えるために、ゆっくり別の時間を取ることができないコースも多いでしょう。でも、わざわざたくさん時間を使わなくても、日本語を教えている授業の中に取り込んで、できることもあります。

この巻は、このようなさまざまな理由で、日本事情や日本文化を教えることを少しためらってきた先生方にも、学習者といっしょに考えながら、楽しんで教えることができる自信を持っていただきたいと考えて制作しました。もちろん、日本事情や日本文化の扱い方にはいろいろな考え方もいろいろな方法もありますが、この巻では、特に、ノンネイティブの先生方が日本から離れた海外の現場で教える状況を前提にしているので、次の2つの点を大きな柱にしています。

- ①海外では、日本在住の学習者に対する授業と違って、教師が提示する資料や情報が情報源として大きな位置を占めることが多い。しかし、その際、できるだけ一方的な知識の伝達やステレオタイプの押し付けにならないように、学習者が自分で見つけたり考えたりすることを大切にする。

②扱う内容については、学習者の興味や関心を大切にしながら、バランスを考える必要がある。伝統文化も大切ではあるが、学習者が自分や自分のまわりの人たちと比べながら考えられるように、学習者の興味や関心が高い現代の文化も同様に扱う。

■この巻の構成

1. 全体の構成

本書の構成は、以下のようになっています。

1. 今までの授業をふり返る

今まで、日本事情や日本文化について、どのような授業でどのようなことを教えてきたか、ふり返ります。

2. 日本事情や日本文化の扱い方を考える

海外の現場で日本事情や日本文化をどのように扱ったらいいか、いくつかの国の例を見ながら考えます。

3. 内容を考える

海外の現場で、日本語の授業をしながら日本事情や日本文化を教えるときの内容を考えます。そのために、日本語の教科書にある日本事情や日本文化を拾い出して整理します。

4. 素材を考える

日本事情や日本文化を教えるときに使える素材を取り上げます。学習者に興味や関心を持たせ、彼らの理解を助けるような素材を考えます。

5. 「日本事情・日本文化」を意識した授業を計画する

日本事情や日本文化を扱うことができる授業例を紹介します。

6. 学習者が学んだことを確認する

日本事情や日本文化について学んだことの確認や評価について、例を紹介します。

2. 各章の構成

この巻のそれぞれの章には、次のような部分があります。



ふり返りましょう

自分自身の経験や教え方をふり返ります。



考えましょう

実際にいろいろな活動や授業の例を見ながら、それが、日本事情や日本文化を教える上でどのような意味を持っているのかを考えます。



整理しましょう

考えたこと、学んだことをもう一度整理して、その目的や意味を再確認し、今後の授業に生かしていけるようにします。

3. 【質問】

この巻は、日本語を教えることを専門とする日本語教師が授業で展開できる日本事情や日本文化を扱っています。そのため、今まで考えたことがないような質問も多いと思います。それぞれの質問が、どのような意図を持っているのか、何を考えたらいいいのか、よくわからないこともあるかもしれません。そのようなときは、「解答・解説編」を見てください。考え方の方向性やヒントが書かれています。そして、あらためて、自分はどう思うのか、今までなんとなく思ってきたこととどこが同じなのか、どこが違うのか、考えてみてください。

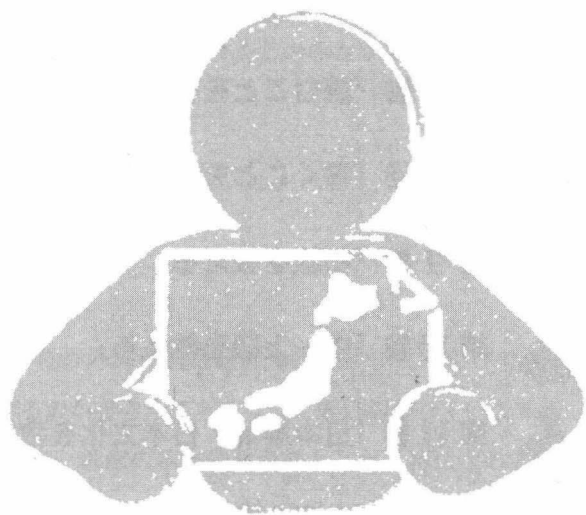
目次

1	今までの授業をふり返る ^{かえ}	2
1-1.	「日本事情」や「日本文化」の授業	2
1-2.	「日本語」の授業の中で扱っている日本事情や日本文化 ^{あつか}	3
2	日本事情や日本文化の扱い方を考える ^{あつか}	8
3	内容を考える—初級の教科書の分析— ^{ないよう}	20
3-1.	文化に関するコラムや紹介文など	20
3-2.	本文中の「日本に ^{かん} 関係あることば ^{しやうかい} 」	21
3-3.	本文中の「日常生活や行動を表すことば ^{かんけい} 」	23
3-4.	ことば以外のもの ^{にちじよう}	24
3-5.	まとめ ^{いがい}	27
4	素材を ^{そざい} 考える	28
4-1.	日本に触れる環境 ^ふ	28
4-2.	写真を使う	29
4-3.	映像（動画）を使う ^{えいぞう}	34
4-4.	データを使う	34
4-5.	「リアリア」を使う	37
4-6.	日本人や日本をよく知っている人を招く ^{まね}	40
5	「日本事情・日本文化」を意識した授業を計画する ^{いしき}	42
5-1.	日本語の授業の中に日本事情・日本文化を取り込む	42
5-2.	日本事情・日本文化を教えるための独立した授業を行う ^{どくりつ}	56

6 学習者が学んだことを確認する	66
6-1. ポートフォリオ	67
6-2. ルーブリック	71
解答・解説編	75
かいとう かいせつへん	
【参考文献】	96
さんこうぶんけん	

日本事情・ 日本文化を教える

国際交流基金 著



1

今までの授業をふり返る かえ

今まで、みなさんやみなさんが教えている日本語のコースでは、いつ、どのように日本事情や日本文化を取り上げてきましたか。ふり返ってみましょう。

1-1. 「日本事情」や「日本文化」の授業



ふり返りましょう
かえ

【質問1】

みなさんが教えている機関では、日本事情や日本文化を教える独立した科目がありますか。あったら、下の表のように整理してください。

<ある国の大学で行われている授業の例>

(1) 科目の名前	「日本事情」
(2) 時期 じき	大学3年生後期
(3) 全体時間数 ぜんたい	90分×12回
(4) 教えている先生	ノンネイティブの先生 ・ ネイティブの先生
(5) 使用言語 しごう	教師と学習者の共通語 (母語など) ・ 日本語 ・ 両方
(6) 使用教材や教具 しごうきょうざい きょうぐ	<機関やコースが使っている教材> 大学のオリジナル教材 <教師が準備している教材> できるだけ、写真などを使っている
(7) 内容 ないよう	<トピック> 祭り、伝統芸能、教育、年中行事、食文化 <トピックや内容の決め方、教え方の特徴など> ・教科書にあるものを教えている ・コースの最後の「プロジェクトワーク」で、勉強したトピックの中から興味があることについて、グループごとに調べて発表させている

(1) 科目の名前	
(2) 時期 <small>じき</small>	
(3) 全体時間数 <small>ぜんたい</small>	
(4) 教えている先生	ノンネイティブの先生 ・ ネイティブの先生
(5) 使用言語 <small>しやうご</small>	教師と学習者の共通語 (母語など) ・ 日本語 ・ 両方 <small>きょうつうご りやうほう</small>
(6) 使用教材や教具 <small>しやうきょうざい きょうぐ</small>	<p><機関やコースが使っている教材> <small>きかん きょうざい</small></p> <p><教師が準備している教材> <small>じゆんび きょうざい</small></p>
(7) 内容 <small>ないよう</small>	<p><トピック></p> <p><トピックや内容の決め方、教え方の特徴など> <small>ないよう き とくちゆう</small></p>

【質問 2】

【質問 1】で整理した表を見直したり、まわりの人と比べたりしながら、気づいたことを書き出してみましょう。

1-2. 「日本語」の授業の中で扱っている日本事情や日本文化



ふり返りましょう
かえ

【質問 3】

みなさんの日本語の授業の中では、日本事情や日本文化を、いつ、どのように取り上げていますか。次の表のように整理してください。

<例 1 >

(1) 科目の名前	「日本語 I」(初級)
(2) 教えている先生	ノンネイティブの先生 ・ ネイティブの先生
(3) 取り上げるとき	<input checked="" type="checkbox"/> 教科書に出てくることばを教えるとき <input checked="" type="checkbox"/> 会話の場面や人間関係を説明するとき <input type="checkbox"/> 読解文の内容を説明するとき <input checked="" type="checkbox"/> 文化について母語などで書かれたコラムを説明するとき <input type="checkbox"/> その他 ()
(4) 使用言語	教師と学習者の共通語(母語など) ・ 日本語 ・ 両方
(5) 使用教材や教具	ときどき、写真を見せる
(6) 問題点	古い写真しかない

<例 2 >

(1) 科目の名前	「日本語読解」(中上級)
(2) 教えている先生	ノンネイティブの先生 ・ ネイティブの先生
(3) 取り上げるとき	<input checked="" type="checkbox"/> 教科書に出てくることばを教えるとき <input type="checkbox"/> 会話の場面や人間関係を説明するとき <input checked="" type="checkbox"/> 読解文の内容を説明するとき <input type="checkbox"/> 文化について母語などで書かれたコラムを説明するとき <input type="checkbox"/> その他 ()
(4) 使用言語	教師と学習者の共通語(母語など) ・ 日本語 ・ 両方
(5) 使用教材や教具	読解の教科書、インターネットから取った情報
(6) 問題点	適当な WEB サイトが見つからないことがある

(1) 科目の名前	
(2) 教えている先生	ノンネイティブの先生 ・ ネイティブの先生
(3) 取り上げるとき	<p>() 教科書に出てくることばを教えるとき</p> <p>() 会話の場面や人間関係を説明するとき</p> <p>() 読解文の内容を説明するとき</p> <p>() 文化について母語などで書かれたコラムを説明するとき</p> <p>() その他 ()</p>
(4) 使用言語	教師と学習者の共通語 (母語など) ・ 日本語 ・ 両方
(5) 使用教材や教具	
(6) 問題点	

ここまで、みなさんやみなさんの機関では、日本事情や日本文化をどのように扱ってきたか、整理しました。特に海外の学習者にとって、(もちろん、個人的にいろいろなメディアから情報を得ている学習者もありますが) 授業の中で与えられる情報や内容が、「日本のイメージ」を作っていることが多いですから、教師が、学習者に何をどのように伝えているか、あらためて意識することが必要です。

【質問 4】

みなさんのコースでは、日本事情や日本文化の何を教えていますか。どのようなことが多く、どのようなことが少ないでしょうか。【質問 1】～【質問 3】でふり

返った内容を次の図を使って、整理してみましょう。

(図 1 にないものがあったら、書き足してもいいです。)

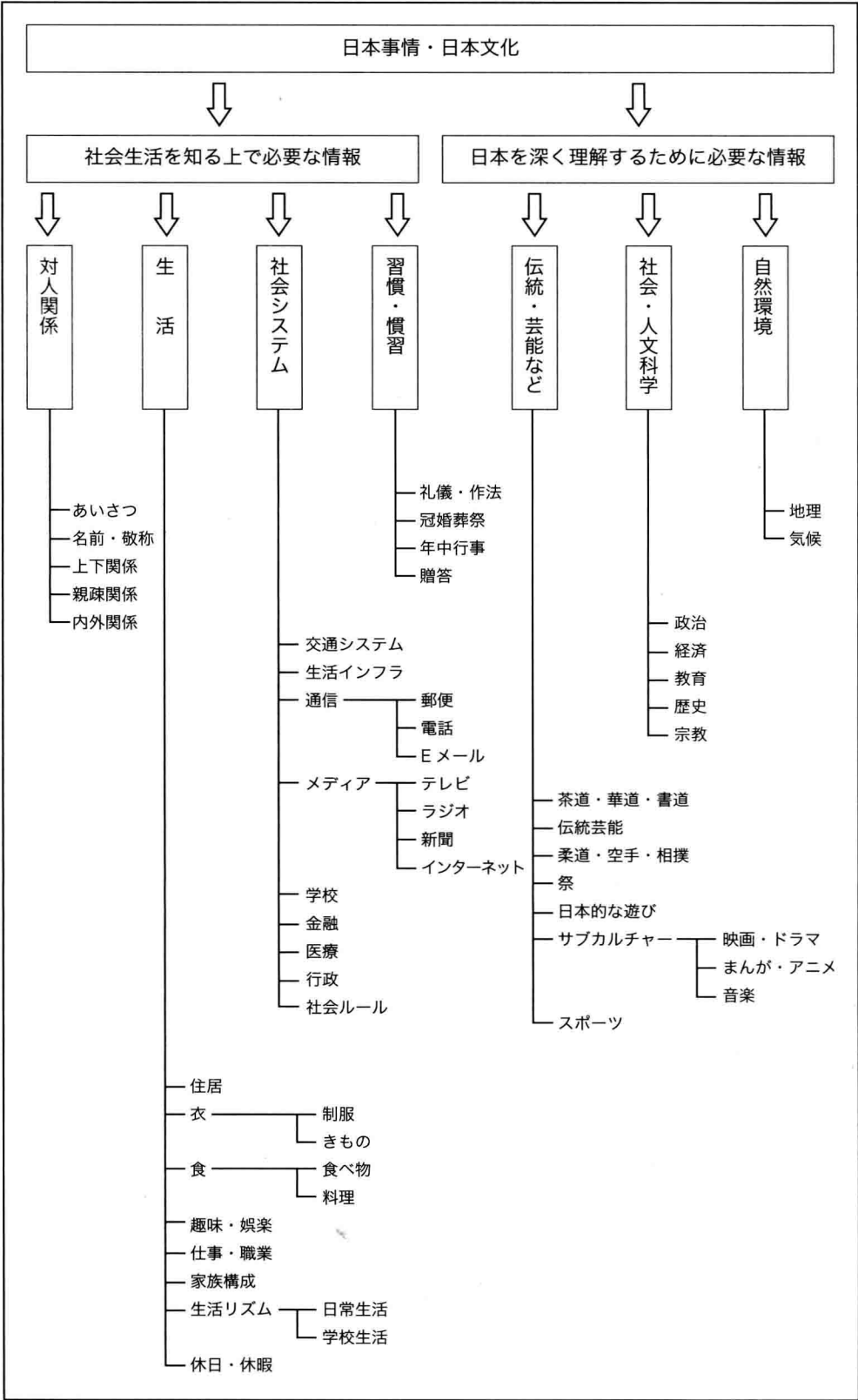


図1：日本事情・日本文化のトピック